

葛西玄涛先生選評



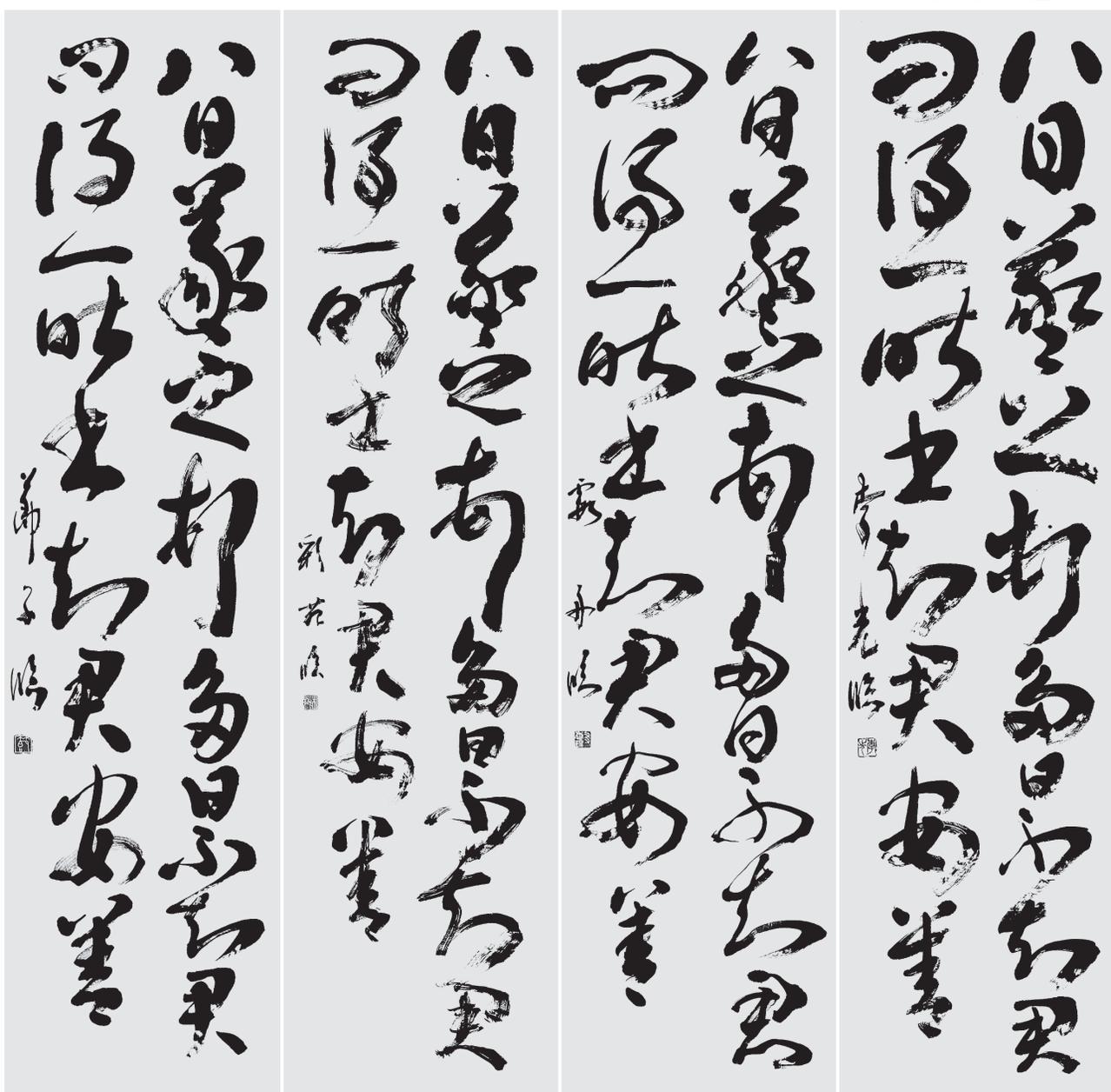
岡野玲子 推選
強い線を紙面全体に響かせ、迫力があります。潤筆部の漢字の強さに負けない仮名の造形と細線の強さは、高い技術と努力から生まれたと思います。感動しました。

榎園美鴻 推選
豪快な書き初めから、終幕に向かい徐々にしつとりと優しく抒情的な曲線が自然な流れで多くなり、協奏曲の余韻のように終わっていく。芸術観の香りが強い。

西本千代子 推選
速いスピードの運筆を強く印象付ける直線と渴筆が適度に配置されて、爽快で若さ弾ける。墨量を多くしている。この速度でもゆつたり見える。参考にしたい。

三ヶ尻祥蘭 推選
直線の硬い線を中心に、一気に書き上げています。墨量がたっぷりであり、潤筆では温かい線を生んでいる。落筆が高く、柔軟な腕の使い方をされています。

桜井辰雄先生選評



作田 李光 推選
 参考作品と解説文を咀嚼して、慣れた羊毛筆で雄渾な世界を描き出しています。柔らかく伸びやかな運筆に加え、骨力も表現するところに書者の底力を感じます。

沖山 友香理 推選
 原本を良く捉えながら、運筆の遅速や太細、強弱も加えられ、見どころの多い流麗な作品に仕上げています。左に寄って見える二行目の処理が残念でした。

福田 彩苑 推選
 スピード感もあり、多墨で重厚感に溢れた書き出しに目を奪われます。一筆でどこまで…のチャレンジが、後に続いたであろう雄厚な展開を閉じたのが残念です。

宮田 節子 推選
 原本の自然な章法そのままに書者の感性を添加して、想いに溢れた手紙が書き上げられたようです。一行目の「多日」に強弱を加えたかったですね。

露崎桂子先生選評



魚地桂鶴 準七
原帖の呼吸をよく捉えていて、安定感があります。後半、筆圧を意識し運筆するように心がけると、更に筆力ある作品となるでしょう。

上原久美子 五段
潤濁の変化が美しい。きちんとした運筆に筆者の真面目さが伝わってきます。元永本の大胆さ、多様な変化が加わると更に魅力ある作に。

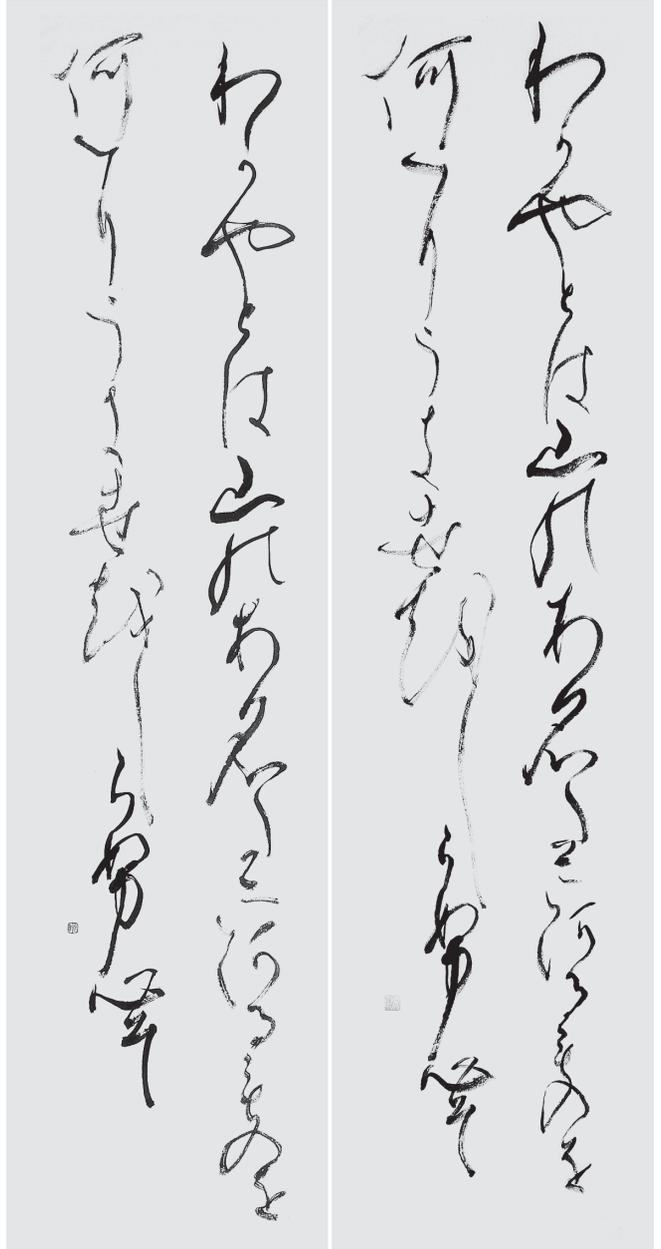
東谷美子 準五
縦長の字形の特色をよく掴んで、流れ美しく、すつきりとした作。穂先をしっかりと立てての運筆は佳。前後半の行間を少しあけると効果的。

湊谷洋子 師範
おろかか息の長い線質は原帖の持つ息つかいを正確に体得しています。潤濁は見事ですが、濁筆部分に今少し繊細な筆運びがあると更に佳に。

佐藤ツル 師範
筆勢があり、細太の変化も美しい。特に濁筆部分の滑らかな運筆はすばらしく、練度の高さを感じます。最後の二行がやや単調になり惜しい。

蜂須賀穂洋 八段
リズムミカルな筆運びが美しく、特に二行目の連綿はよどみなく、筆者の気魄さえ感じます。最後まで美しい運筆が続き、完成度の高い作品です。

吉澤真理先生選評



川口能正 推選
筆力充実し、ピリっと引き締まった細線が小気味良い流れを作っています。文字の中の庄の変化も見事で、作品を自分のものとして存在感を発揮しています。

松下晃子 推選
しなやかでぬくもりある線條、自然な氣息で快調な運筆は、美しい潤濁の変化を生みました。迷いのない連綿線はかなの流動美をみせています。

若林久美子先生選評



八田修子 師範
丁寧な筆運びで一文字ずつ着実に纏めている。滋味溢れる線で義之の端麗な温もりを表現している。少し波乱が見えると華やかさが増します。

桜井信吉 準七
運腕が大きく広い空間を全て自分のものにしていて気持ちの良い作品です。伸びやかな線で優美な義之の世界を表現している秀作です。

鈴木芳陽 師範
落筆高く一気呵成に送る筆に迷いがなく、心が晴れます。端正な面差しをそのままに、温厚な線で鋭さも表現できていて頼もしいです。

梅澤子典 準六
控え目な表現ながら、背筋の伸びた凛とした面持ちと清涼で透明感のある美しい線が目を引きまします。右肩上がりを強調してみても良かったかな。

熊谷櫻泉 師範
澄明で痛快。心地良い流線の中の引き締まった直線がスパイスとして効いている。途切れない気脈と筆力、緩急の匙加減も見事です。

佐々木圭凜 二段
どっしりした構えで墨量豊かに仕上げた意欲作。筆の浮沈で鮮やかな変化を加え丁寧な臨書しています。気脈の通貫を大切にしましょう。

村田籬香 師範
丁寧な原帖を研究し、結体や起筆、収筆、左払いに気持ちが行き届いています。線のキレも良く爽やかな渴筆が立体感を生んでいます。

小浜佳子 準四
線の太細や緩急でメリハリをつけながらリズム良く運筆していて楽しい気持ちにさせてくれる力作。墨量もしっかり載せて余裕があります。

長谷川邦子 八段
潤沢な墨と無理のない穏やかな筆運びで、ほんわかとした温かみのある作。懐の広い結体とも相まって優しく和やかな作品に仕上がられています。

中川初美 五級
しなやかな線と度胸よく縦横無尽に動く筆捌きが圧巻で、ベテラン勢に負けない輝きを放つ逸材です。今後恐れず邁進して行って下さい。

平田昌明 七段
肉厚のたつぷりした線で張猛龍の豊かな奥行きを表現しています。起筆の角度、横画の収筆は少々疑問ですが、堂々として揺るぎがないのが佳。

小路逸子 準三
清々しく、しなやかな線が美しい流れを生み、活き活きと輝いて見えます。素直な表現力と澁みのない線が最大の魅力です。